

百人一首 (うたばんごう 歌番号: 51 ~ 55)

<p>滝の音は絶えて久しく なりぬれど 名こそ流れて なほ聞こえけれ</p> <p>大納言公任</p> 	<p>忘れじの行く末までは かたければ けふを限りの命ともがな</p> <p>儀同三司母</p> 	<p>嘆きつつひとり寝る夜の 明くる間は いかに久しきものとかは知る</p> <p>右大将道綱母</p> 	<p>明けぬれば暮るるものとは 知りながら なほ恨めしき朝ぼらけかな</p> <p>藤原道信朝臣</p> 	<p>かくとだにえやは伊吹の さしも草 さしも知らじな 燃ゆる思ひを</p> <p>藤原実方朝臣</p> 
<p>なこそなが れてなおき こえけれ</p>	<p>きようをか ぎりのいの ちともがな</p>	<p>いかにひさ しきものと かはしる</p>	<p>なおうらめ しきあさぼ らけかな</p>	<p>さしもしら じなもゆる おもいを</p>